

傘寿の会アゲイン

昭和35卒同期会

われらは昭和35年卒、あの戦争開戦前後に生まれ、秋高駅前校舎最後の卒業生でもある。よって歳^{よわい}82・83になった。われらの傘寿の会は、令和2年2月に開催案内を出し会場まで手配した。だが新型コロナウイルスが世界中に蔓延^{まんえん}し、国内の移動すら制限されるに至り、コロナ収束等の状況を見て再度案内することと中止。

令和5年、コロナの落ち着きを見て再会を望む声上がり、傘寿はとうに過ぎていたので、「傘寿の会アゲイン」とし開催案内を送付した。

コロナによる3年の空白は大きな痛手だった。会長の河村鴻允君らが逝去されたほか、前回は出席予定だったがその後、病等で出席できない友人も多くみられた。

会は令和5年9月23日、42名出席のもと、イヤタカで開催した。恩師は他界されたため、世話人代表である三浦捷也君の挨拶で始まり、乾杯の音頭は熊本市から駆け付けた板澤豊彦君が取った。出席者の近況報告の後、締めは神奈川から700kmドライブしてきた佐々木慎作君が行い、最後に「天上はるかに」を高らかに歌って互いの健康を祈り閉会した。

(高畑 重幸=昭和35卒 記)



記念DVDでタイムスリップ

北秋田支部総会

令和5年11月25日、北秋田支部総会が北秋田市鷹巣、ホテルニュー松尾 耕ホールにて柘植校長先生、佐藤同窓会事務局長をお迎えし、5年ぶりに開催された。

150周年記念祝賀式典の冒頭に上映された周年記念の太平山登山や雄物川強歩、人文字撮影の様子を収めたDVDを鑑賞。生徒らのはつらつとした行動に参加会員は現役時代にタイムスリップ。

奈良正人幹事長(昭和41卒)の開会の言葉を受け、秋元哲夫新支部長(昭和34卒)が挨拶、続いてご来賓の柘植校長先生にご挨拶をいただいた。

奈良幹事長が議長となり議事進行、役員改選も決議され懇親会に移る。数年ぶりの校歌斉唱、喉の通りもよくなったところで佐藤同窓会事務局長の乾杯のご発声で飲み方始め。150周年記念グッズ(150周年記念誌、新先蹤録、校章口ゴ入りタオルのセット)のお買い上げをお願いしたところ、瞬間に売れた。さすが、当支部会員の母校愛はすばらしいと感じ入った。森澤徳夫副支部長(昭和35卒)の閉会の言葉で会を締めくくった。

(事務局・佐々木 孝憲=昭和42卒 記)



つどい、

TSUDOI

時間を忘れにぎやかに談笑

大館支部総会

令和5年12月18日、「北秋くらぶ」にて総勢12名により大館支部総会が開催されました。折からの悪天候にもかかわらず、本部から佐藤悦紹事務局長、柘植敏朗校長先生が駆けつけてくださいました。

佐藤茂範支部長(昭和41卒)の挨拶、そして伊藤碩彦支部顧問(昭和35卒)の乾杯の発声。コロナ禍を経ての4年ぶりの再会に、近況報告や思い出話に花が咲く中、母校150周年記念動画が上映されました。

柘植校長先生の生徒たちへの愛情あふれるナレーションに、参加者全員がしばし高校生に戻ったような楽しい時間を過ごさせていただきました。

その後もにぎやかな談笑の輪が広がり予定時間を大幅に超過しましたが、寺岡洋一副支部長(昭和43卒)の中締めで、来年の再会を期しての閉会となりました。

(幹事・鬼川 光洋=昭和52卒 記)



盛大に卒業10周年を祝う

平成26卒同期会

1月2日、秋田キャッスルホテルにて平成26年卒業生 卒業10周年記念同窓会が開催された。恩師にもたくさんご参加いただき、総勢100人を超える大所帯での開催になった。前日には能登半島地震が発生し、欠席を余儀なくされた同窓生もいたが、無事に開催でき幹事として安堵している。

会は倉田健太郎君の乾杯で始まった。高校時代の思い出話に笑ったり、社会で活躍する同期生に刺激を受けたりと話は尽きなかった。当時の学年主任 小松弘樹先生よりいただいた祝辞は、10年前を彷彿とさせる熱意に満ちており、皆真剣なまなざしで聞いていたのが印象的であった。時間はあっという間に経過し、最後は合谷木諒君に中締めをしていただいた。互いの活躍を祈念しつつ、再会を誓い合い散会した。

(丹波 佑介=平成26卒 記)

